



令和7年度

内谷中学校学習案内 ～シラバス（第2学年）～



さいたま市立内谷中学校

〒336-0034 さいたま市南区内谷6-10-1

TEL 048-861-7571 FAX 048-836-1586

<http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

この「学習案内（シラバス）」は、生徒の皆さんが学校の授業に見通しをもち、主体的・計画的に学習に取り組んでもらうことを目的として作成してあります。各教科のねらい、学習内容と授業の進め方、学習上の留意点、評価の観点と方法などが示されています。また、それぞれの単元や教材で身につけてほしい力を「到達目標」という形で示しています。

また、今年度はカリキュラムマネジメントの視点から、各教科の関連を意識した授業を行っていきます。

いつも身近なところにおいて読み返し、学習の指針として活用してください。

目次

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術・家庭

グローバル・スタディ

特別の教科 道徳

特別活動

総合的な学習の時間

国語科の目標	評価の観点等
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを旨とする。 ・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○社会生活に必要な国語の知識を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができているかどうか等を評価します。 ★定期テスト、ノートやプリント等の記述内容、発表内容等をもとに評価します。 ②思考・判断・表現 ○筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができているか等を評価します。 ★定期テスト、感想や作文、ノートやプリント等の記述内容、話し合い活動や、それらの活動に基づいた発表等をもとに評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度等を評価します。 ★ノートやプリント等における記述内容、授業中の発言や参加状況、振り返りカード、教員による行動観察等をもとに評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
国語科の授業では、日常的な語彙の習得から、日本語を用いた思考力や表現力を養います。 目標にある「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることを指します。そのような目標に向かって、優れた言語感覚をもった生徒を育成します。 授業は、1・2年生は週4時間、3年生は週3時間で実施します。 日々の授業の中では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について学習します。 また、ICTを活用することで、個々の意見や考えをクラス全体で可視化、共有し、一人ひとりの考えをさらに深めていけるようにします。	

令和7年度		国語科 第2学年の目標
〔知識及び技能〕社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 〔思考力、判断力、表現力等〕筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。 〔学びに向かう力、人間性等〕言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。		
学期	学 習 到 達 目 標	
1学期	詩 虹の足 ☐言葉の意味や表現の効果について捉えることができる。 ☐比喩などの表現方法について確認することができる。 小説 タオル ☐象徴表現の効果や言動の意味に注意して、少年の心情の変化についてまとめることができる。 ☐文学的な表現を通じて語感を磨き、語彙を豊かにする。 説明 日本の花火の楽しみ 水の山 富士山 ☐説明の仕方に注目しながら読み比べ、内容を捉えることができる。 ☐図や写真と文章とを関連づけながら内容を捉えることができる。 文法 活用のない自立語 ☐名詞の種類と用法について理解する。 ☐連体詞、副詞、接続詞、感動詞の種類や用法について理解する。 硬筆 ☐横罫線の手紙に行書で書くことができる。	
2学期	夏の葬列 ☐資料を活用し、作品の時代背景を知る。 ☐場面の展開や、登場人物の心情の変化を捉えることができる。 ☐結末部分について考えを深め、話し合う。 敦盛の最期 ー平家物語ー ☐文章の特徴を生かして朗読する。 ☐直実の気持ちの変化を読み取ったり、敦盛の気持ちを考えたりすることができる。 随筆の味わい ー枕草子・徒然草ー ☐歴史的仮名遣いに注意し朗読することを通して、古文らしい表現や情緒にふれる。 ☐自分なりの「ものづくし」を書く。 二千五百年前からのメッセージ ー孔子の言葉ー ☐漢文訓読の方法を確認し、書き下し文を音読することができる。 ☐孔子のものの見方や考え方にふれる。 さまざまな考えを踏まえ討論する（ディベート） ☐情報を収集しながら多面的な考え方で捉える方法を学ぶ。 文法 活用のある自立語 ☐動詞の種類や活用について理解する。 ☐形容詞・形容動詞の役割や活用について理解する。 毛筆 ☐手本を見ながら丁寧に視写する。 ☐行書の特徴を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書く。	
3学期	説明 ガイアの知性 ☐具体例と筆者の主張の関係を確認する。 ☐自然や知性に対する筆者の考えについて、自分の考えをまとめることができる。 小説 走れメロス ☐時間の順序に沿って文章の構成を捉えることができる。 ☐登場人物の言動に注目し、人物像を捉えることができる。 ☐言葉を、いつもと違った視点から捉え直すことができる。 文法 付属語のいろいろ ☐助詞のはたらきや、4つの分類「格助詞」「接続助詞」「副助詞」「終助詞」について理解する。 ☐助動詞の種類とはたらきについて「助動詞活用表」を参考にして理解する。 書評合戦 ビブリオバトル ☐紹介するものの長所を理解し、他者を納得させる話し方を学ぶ。	

社会科の目標
◎広い視野に立って、社会（世の中）に対する関心を高める。 ◎資料を分析・活用して、多面的・多角的に考察し、表現できる力をつける。 ◎国土と歴史に対する理解を深める。 ◎グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国・社会を形成する一員として必要な、公民としての基礎を育成する。
学習の特色
◎身につけた基礎知識を活用し、思考力・判断力・表現力を高めていく教科です。単に覚えるだけではなく、一つの事柄を様々な視点から考えることで、より理解を深める。 ◎世界の動向や地域社会の課題など、社会に課題意識を持ち、解決していくためのスキルを習得する。 ◎授業では、基礎知識を理解するとともに、教科書を中心とした資料を活用し、資料に基づいて考察するなどの学習を進める。 ◎先生の話だけでなく、クラスメイトの主張にも耳を傾けつつ、自分の考えを修正したり補強したりする。 ◎興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりする場として、授業内で自分の考えを、ICTを用いて発表する機会を設ける。 ◎自主学習課題を工夫して進めることで、主体的に、知識だけでなく思考・判断・表現力も伸ばす。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○社会的事象に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付けるようとしている。 ★ テスト（定期テストなど） ★ パフォーマンス課題 （レポートや ICT を用いたプレゼンテーションなど） ②思考・判断・表現 ○社会的事象の意味や意義を、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力や、その思考・判断の内容を説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★パフォーマンス課題 （ICTを用いたプレゼンテーション・レポートなど） ③主体的に学習に取り組む態度 ○社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★パフォーマンス課題 （プレゼンテーション・レポートなど） 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 社会科 第2学年の目標	
社会科好きの生徒を育てる授業の実践	
学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	＜歴史的分野＞ 第4章 近世の日本 ○1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 2節 江戸幕府の成立と对外政策 3節 産業の発達と幕府政治の動き ・17世紀、江戸幕府の成立から、19世紀前半の幕末前までを学習する。 ・江戸時代、幕府と藩による支配が確立されたこと、町人文化や生活文化が生まれたこと、幕府の政治がだんだん行き詰っていくことを理解する。 ・近世の社会が変化していく様子や、近世を大観した特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ＜地理的分野＞ 第2編 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査の手法 ・さいたま市など、身近な地域について関心を持ち、課題を追究したり、解決したりする活動を行う。 ・地域を調査するさまざまな手法（野外調査や文献調査、地形図の読み取り方など）の基礎を理解する。 ・調査の手法や結果を適切にまとめ、表現する力を身につける。 第2章 日本の地域的特色と地域区分 ・日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の4つについて、分布などに着目して特色を学ぶ。 ・4つの項目についての日本の特色を得るとともに、各種の主題図や資料を基に地域区分をする技能や、日本全体の特色を大観する力を身につける。 ・地域区分を基に、共通点や異なる点などに着目して、関連などを考察できるようになる。
2 学 期	＜地理的分野＞ 第2編第3章 日本の諸地域 ・日本を九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の7つの地方に分け、以下の5つの中核となる考察の仕方を用いて、主題を設けて課題を追究・解決する。 ＜学習の中核となる考察の仕方＞ ① 自然環境 ②人口や都市・村落 ③産業 ④交通や通信 ⑤その他の事象 ・各地域について、中核となる考察の仕方を取り上げた事象、特色や課題を理解する。 ・各地域で見られる事象がどうして成立しているかを他の事象や課題と関連付けて考察する。
3 学 期	＜地理的分野＞ 第4章 地域の在り方 ・身近な地域に着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。 ・地域の実態や課題解決のための取り組みについて理解する。 ・地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目して、課題の考察を表現する。 ＜歴史分野＞ 第5章 開国と近代日本の歩み ○1節 欧米における近代化の進展・2節 欧米の進出と日本の開国・3節 明治維新 ・19世紀ごろから20世紀のはじめのころまでの日本の歴史を、18世紀ごろからの世界の動きとの関わりの中で考える活動を行う。 ・欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことや、人々の生活が大きく変化したことなどを理解する。 ・近世の社会が変化していく様子や、近代の日本と世界を大観した時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

令和7年度 内谷中学校 数学科 シラバス

数学科の目標 ・数学を学ぶことで、問題解決の喜びを感じ、人生をより豊かにする。このため、数学と人間との関わりや数学の社会的有用性についての認識を高められる生徒の育成をする。 ・社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められる能力を育成する。	評価の観点等 評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色 数学科の授業では、定義をもとに、用語や知識の習得と、基本的計算の反復練習、根拠をもとにした説明能力をバランスよく身に付けていく。加えて、3年間を通して、美しく簡潔な解答を作成できる能力を育成する。 1, 3年生は週4時間, 2年生は週3時間, 授業を行う。授業内では教科書やワークシートを活用し, 前時の授業からのつながりを大切にしながら系統的に進めていく。また, ICT の活用により, 関数のグラフや図形等の知識の上にあるイメージをより鮮明にし, 理解につながる授業の工夫も取り入れる。 さらに, 数学科では, STEAMS 教育の中心として, 「言語としての数学」を重視し, 他教科との連携を図り, 自らが考え, 問題を解決する能力を育成する。	①知識・技能 ○各教科で身につけるべきとされる知識やスキルについて, 十分に習得しているかを評価する。 ★定期テスト, ワークシート, ワーク, 授業中の出題 等。 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って解決の糸口を見つけ, 自らの思いを表現できているかを評価する。 ★定期テスト, ワークシート, ワーク, 授業中の論理的な記述 等。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○生徒本人がいかに学習を調整して, 知識を習得するために試行錯誤しているかを評価する。 ★定期テスト, 授業中のグループ活動や発表・課題レポート 等。 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 数学科 第2学年の目標

「なぜだろう？」を意識した授業の展開

学期	学 習 到 達 目 標
1学期	1章 式の計算 - 文字を用いた式の必要性和意味を考えようとしている。 - 文字を用いた式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 - 文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 2章 連立方程式 - 連立方程式の必要性和意味を考えようとしている。 - 連立方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 - 連立方程式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。
2学期	3章 一次関数 - 一次関数の必要性和意味を考えようとしている。 - 一次関数について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 - 一次関数を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 4章 図形の調べ方 - 図形の性質などを証明することの必要性和意味を考えようとしている。 - 平面図形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 - 平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。
3学期	5章 図形の性質と証明 - 図形の性質などを証明することの必要性和意味を考えようとしている。 - 三角形や平行四辺形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 - 三角形や平行四辺形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 6章 場合の数と確率 - 場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 - 確率について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 - 確率を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 7章 箱ひげ図とデータの活用 - 箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を考えようとしている。 - 箱ひげ図や四分位範囲について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 - 箱ひげ図や四分位範囲を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。

理科の目標
身のまわりにある自然や物質、あるいは身の回りで起こっている現象について、調べ方を考え、予想をし、観察や実験を行って得られた結果を解析して規則性を把握する教科である。そのために、自然や事物現象に対する知識を習得するとともに、その観察や実験で得られた結果を考察し表現する能力、自然や事物現象にいかに関心を持ち、生活の中に活用できるかを考えられる能力を育成する。
学習の特色
理科という教科は、観察・実験があるため、5教科の中でもとりわけ実技系教科に近い性質があり、テストの点数だけでなく、観察・実験の評価も合わせて成績の判断とします。そのため、テストの点数が高いからといって、観察・実験をないがしろにしていると成績が上がりにくく、逆にレポートが素晴らしいと評価が上がることもあります。 各学年で「生命」に関する単元、「地球」に関する単元、「物質」に関する単元、「エネルギー」に関する単元があり、この単元なら得意、という内容が見つかることも少なくありません。また理科は他教科の内容を幅広く扱うことも多く、特に数学、社会、技術・家庭科、保健体育、美術など、様々な教科のエッセンスを取り扱う事も多い教科です。理科を学習することで、他教科の内容も深く理解することができることが多いのも特徴と言えます。 最後に理科は「疑問」から成立した教科です。常に「疑問」を持って、自分なりに考え、観察・実験を通して結果をまとめ、発表できるような能力の育成を目指しています。

評価の観点等

評価の観点

- ①知識・技能
- ②思考・判断・表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

①知識・技能

○身のまわりの自然や物質、現象などについて知識を習得し、それを利用する事ができるとともに、観察・実験を適切に行い、結果をまとめることができる。

★主にテスト・観察・実験レポート

②思考・判断・表現

○身のまわりの自然や物質、現象などがどのような仕組みでそうになっているかを予想し、観察・実験で得た結果をもとに規則性を見つけて、表現することができる。

★主にテスト、観察・実験レポート

③主体的に学習に取り組む態度

○身のまわりの自然や物質、現象などについて、積極的に取り組む姿勢を持つとともに、習得した学習内容を自ら活用できるようにすることができる。

★主に授業ノート、ワーク、テスト、授業の様子等

評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 さいたま市立内谷中学校 理科 シラバス

学年・教科		第2学年 「理科」	
教科目標		自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。	
指導計画		学習内容	学習のねらい
	1 学期	化学変化と原子・分子 ○物質の成り立ち ○物質の表し方 ○さまざまな化学変化 ○化学変化と物質の質量	○化学変化についての観察、実験を通して、物質の成り立ちやその量的な関係について理解する。 ○これらの事象を原子、分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。
	2 学期	生物の体のつくりとはたらき ○生物の体をつくるもの ○植物の体のつくりとはたらき ○動物の体のつくりとはたらき ○動物の行動のしくみ	○身近な植物についての観察、実験を通して、植物のからだのつくりとはたらきを理解する。 ○身近な動物についての観察、実験を通して、動物のからだのつくりとはたらきを理解する。 ○動物の行動のしくみやその生活についての認識を深める。
		地球の大気と天気の変化 ○地球をとり巻く大気の様子 ○大気中の水の変化 ○天気の変化と大気の動き ○大気の動きと日本の四季	○身近な気象の観察、観測を通して、天気変化の規則性に気付く。 ○気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。
	3 学期	電流とその利用 ○電流の性質 ○電流の正体 ○電流と磁界	○陰極線と電子の説明から金属中を流れる電流が電子の移動であることを理解する。 ○電流回路についての観察、実験を通して電流と電圧の関係および電流の働きについて理解する。 ○日常生活と関連付けて電流と磁界について初歩的な見方や考え方を養う。
評価方法		学期評価 ＊学習活動への取り組み、ノートやレポート、授業時間内に行う小テスト、定期試験などで評価します。 定期試験 ＊観点に分けて作成します（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）	
学習方法		○教室での授業、及び理科室などでの実験、観察。（校舎外なども含む） ○デジタル教科書、映像などを利用した視聴覚的学習。 ○タブレットを活用した積極的な意見発表及び交換。（ICTの活用）	
その他		○実験室確保のため、教科書の順番を入れ替えて実施する場合があります。 ○安全に授業を進めるため、安全メガネを着用します。着用できない場合は、観察・実験が行えないこともあります。 ○1学年で購入した理科便覧は、引き続き3年生まで使用するので、大切に扱ってください。 ○授業道具は学校に置いておいてもよいです。安全眼鏡を自分で持っている人は、観察・実験授業時には必ず持って来てください。復習のために教科書やファイルなどを持ち帰るのは構いません。 ○配布されたプリント類は必ずファイルに保存してください。	

音楽科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指しています。
学習の特色
音楽の授業は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」を通して、日常のさまざまなことを、音楽と結びつけて考える力を身に付けること、また、その力をもって生涯を通して音楽を好きになっていくことが目標です。 音楽は週に1年生は1・5時間、2・3年生は1時間あります。1回1回の授業を大切にしていきたいと思います。 2学期には、合唱祭という大きな行事があります。限られた練習時間で歌えるようになるには、個々の努力やクラス全員の団結力が必要です。ぜひ混声合唱で歌い合わせるハーモニーの美しさを味わってほしいと思います。 昨年度に引き続き、全学年でリコーダーの授業の実施、1年生でアルトリコーダーの購入を検討しています。ICTを用いた作曲活動にも取り組む予定です。 また、管弦楽教室（第2学年）、合唱祭（全学年）、小中合同音楽会（第3学年の1学級）等、学校外のホールにて、音楽に関する行事があります。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能が身についているかを評価します。 ★定期テスト、実技テスト、授業中の実技の様子等を総合して評価します。 ②思考・判断・表現 ○音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるかを評価します。 ★ワークシートの記述（鑑賞）、定期テスト（リスニング問題）、授業中の実技の様子等を総合して評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培われているかを評価します。 ★ワークシート（自己評価カード）等提出物の記述、授業中の取り組みや発言、テストのへの取り組みを総合して評価します。 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 音楽科 第2学年の目標

【知識及び技能】曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】曲想と音楽の構造との関わりや楽曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習に取り組む。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	□「Joy To The World」(内谷中発声練習)、校歌「白いノート」 ○よい発声で歌うことに必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 ○音楽の授業に積極的に取り組む雰囲気づくりができる。 □「You Can Fly!」 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ○音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚と感受の関わりを考え、曲にふさわしい表現を創意工夫する。 ○曲想と音楽の構造との関わりや歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □「交響曲第5番 ハ短調」 ○曲想と音楽の構造と関わりを理解する。 ○音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚と感受の関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、楽曲のよさを味わって聴く。 ○曲想と音楽の構造との関わりやオーケストラの豊かな響きに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
2 学 期	□学級ごとの選択曲(合唱祭に向けて) ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ○音楽の要素が生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚と感受の関わりについて考え、曲にふさわしい歌詞表現を創意工夫する。 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、クラスの仲間との音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □「浜辺の歌」「早春賦」「花の街」 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 ○リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌詞表現を創意工夫する。 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □「ボレロ」 ○曲想と音楽の構造との関わりを理解する。 ○音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚と感受の関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、楽曲のよさを味わって聴く。 ○曲想と音楽の構造との関わりやオーケストラの音色や響きに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □サミングや息のコントロールを身に付けて表現を工夫しよう ○リコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な息のコントロールやサミングなどの技能を身に付ける。 ○音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚と感受の関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。 ○リコーダーの音色や響きと奏法との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組む。
3 学 期	□雅楽「越天楽」 ○音楽の特徴とその背景となる文化や歴史を理解する。 ○音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚と感受の関わりについて考えるとともに、音楽表現の固有性について考え、楽曲のよさや美しさを味わって聴く。 ○音楽の特徴とその背景や歴史、雅楽の楽器に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

美術科の目標	評価の観点等
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てていくことを目標としています。 ○造形的な視点を生かし、表現方法を工夫して、造形的に表すこと。 ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し、発想や構想を練ること、また美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めること。 ○創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うこと。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○発想や構想したことなどを基に、創意工夫したり、見通しをもちながら表したりすること、用具を正しく用いているか、形や色彩などの性質や効果などを理解しているかなどを評価します。 ★ワークシート、作品制作の様子、作品などを総合的に評価します。 ②思考・判断・表現 ○感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想や構想をしてくと共に、美術作品や美術の働きや美術文化に関する鑑賞を通して評価します。 ★ワークシート（アイデアスケッチや鑑賞）、作品制作の様子、作品などを総合的に評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識・技能や思考・判断・表現の能力を身につけるために、どのように努力を重ね、主体的かつ意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ★ワークシート（特に振り返りカード）、授業での取り組みの様子や、発言、作品での取り組みの工夫、などを総合的に評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
美術の授業では、「感じ取ったことや考えたことなど」や「目的や機能などを考えたこと」から発想や構想し、立体や平面の作品に表していく表現の活動や、美術や美術文化について、見方や感じ方を深める鑑賞の活動を通して、作品をつくりあげる喜びや、心豊かな生活を創造していこうとする気持ちを育みます。 美術は週に1年生は1・5時間、2・3年生は1時間しかありません。1時間の授業を大切に制作に取り組みましょう。また、「こんなところにも美術が使われている」「これを美術に生かしたら楽しそうだな」など、日ごろから皆さんの身の回りのものを美術的な視点で見ていくと美術の力につなぐことができます。 美術は自分なりの正解を創りだしていく授業です。ぜひ、自信をもって作品をつくりあげてください。	

令和7年度 美術科 第2学年の目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	オリエンテーション • これからの1年間の美術の学習内容に取り組む意欲を高める。 • 美術の学習の目的を考え、授業を受ける心構えを理解し、作品を大切にする気持ちを育てる。 ひと目で伝わるみんなのデザイン • ピクトグラムやサインの造形的な特徴などに着目し、形や色彩の工夫を理解している。 • 伝える相手や内容、伝える場面を基に、形や色彩による伝達の効果を考え、構想を練っている • 自分の作品を身の回りで使用したり、展示して鑑賞するなど生活に活かそうとしている。 • 自分や友だちの作品を鑑賞し、表現の意図や工夫などについて考え、話し合っている。 自由な視点で風景を見つめる • 作品の視点や構図の工夫による造形的なよさや美しさ、イメージの変化を感じ取っている。 • 風景を視点を変えて見つめ、感じ取った新鮮な感動から主題を生み出し、創造的な構成を工夫し表現の工夫し、表現の構想を練っている。 • 自分や友だちの作品を鑑賞し、表現の意図や工夫などについて考え、話し合っている
2 学 期	土と炎の造形～陶芸～ • 使いやすさと美しさや楽しさなどの視点から、形や色彩、材料などの効果を考え構想を練っている。 • 材料や用具を生かし、仕上がりの美しさ、手順などを総合的に考えて制作している。 • 作品を工夫して飾り鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、その思いや意図、表現の工夫などを感じ取っている 心のイメージを形に・感情やイメージなどから主題を生み出し、形や色彩、構成をなどで表現の構想を練っている。 • 材料や用具の特性を生かして表現方法を工夫しながらあらわしている。 • 互いの作品を鑑賞し、主題をどう表したのかや、表現の意図や工夫などについて話し合っている。
3 学 期	手から手へ受け継ぐ • 日本の風土やそこで生まれた伝統工芸を鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取るとともに、SDGsの視点に関わることについて考えている。 季節を楽しむ心～絵手紙ネオ～ 1 自然や季節感を取り入れた絵手紙のよさや特性について理解している。 2 自然の良さや季節感を取り入れ、絵手紙の主題を生み出し、形や色彩、材料などの効果を考え構想を練っている。 3 クラスで作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について考え、話し合っている。

保健体育科の目標	評価の観点等
保健体育を学ぶことで、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。・各種の運動の特性に応じた技能・健康・安全について理解し、基本的技能を身につける。・自他の課題を発見し、解決に向けて思考判断し、他者に伝える力を養う。・生涯にわたって運動に親しみ、健康保持・体力の向上を目指し明るく豊かな生活を営む態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	
保健体育科の授業では、教科の目標をもとに、知識を習得し、それぞれの運動の特性に応じた行い方や運動をすることの意義や効果などについて科学的に理解できるようにします。基本的技能を身につけることで、生涯にわたって運動に親しむ資質をはぐくめるようにします。また、3年間を通して体力の向上を目指し、将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指していきます。 1・2・3年生ともに週3時間、授業を行います。授業内では毎時間の目標をたて、教科書や学習カードを活用し、どうしたら上達したり、身につけたりすることができるのかを考えながら進めていきます。また、ICTを活用し、知識を深めるとともに、動画撮影等を行うことで、動きのイメージをより鮮明にし、分析したり、他者に伝えたりすることができるようにします。 1学期には体育祭を開催します。全学年が、学習の成果の発表の場として表現をしたり、競技力向上を目指したりします。活動を通して、集団としてのまとまりや他を認める心を育てていきます。	①知識・技能 ○運動の意味や成り立ちを知り、実際に行うことができるか評価する。また、保健課題について理解を深められているか評価する。 ★テスト (定期テストや実技テスト等) ★授業内の取り組み ★学習カード ②思考・判断・表現 ○自分の課題を見つけ、適した練習を選択し、課題を解決するために必要な力を身に付けたり、表現したりすることができるか評価する。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★学習カード ★授業内の取組 ③主体的に学習に取り組む態度 ○健康や安全に留意し、一人一人の違いを認めながら、仲間と協力して積極的に学習に取り組んでいるか評価する。 ★授業中の取り組み方 ★学習カード 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 保健体育科 第2学年の目標

基本を生かし、運動の楽しさを味わいながら、自己の課題を仲間と共に解決していこう。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	○体育に関する知識 ・運動やスポーツの学び方や運動の効果を理解し、自己の生活につなげることができる。 ○体づくり運動 ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的にあった運動を身に付けることができる。 ○陸上競技Ⅰ（走り幅跳び） ・技術の名称や行い方などを理解し、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができる。 ・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○器械運動（跳び箱） ・器械運動の特性や成り立ち等を理解し、自己の能力に適した技がよりよくできる。 ・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○水泳 ・記録の向上や競争の楽しさを知り、技術の名称や行い方を理解し、泳法を身に付けることができる。 ・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○保健（傷害の防止） ・交通事故や自然災害などによる傷害の要因を知り、要因を防ぐ方法を考えることができる。
2 学 期	○ダンス（創作ダンス） ・リズムに乗って全身で踊ることや、イメージを捉えて表現することができる。 ・表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○球技Ⅰ（ソフトボール・バレーボール） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○陸上競技Ⅱ（長距離走） ・自己にあったペースを見つけ、タイムを短縮したり競争したりできる。 ・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○球技Ⅱ（タグラグビー・バドミントン） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○保健（傷害の防止・健康な生活と疾病の予防） ・交通事故や自然災害などによる傷害の要因を知り、要因を防ぐ方法を考えることができる。 ・生活習慣に関わる疾病を理解し、予防や健康を保持増進する方法を考えることができる。
3 学 期	○武道（柔道・剣道） ・基本動作と基本となる技を身に付けることができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○球技Ⅲ（サッカー） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○保健（健康な生活と疾病の予防） ・生活習慣に関わる疾病を理解し、予防や健康を保持増進する方法を考えることができる。

令和7年度 内谷中学校

家庭科 シラバス

家庭科の目標
◎それぞれの分野について、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。 ◎生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する力を養う。 ◎家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。
学習の特色
◎調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識・技能を生徒自らの生活に生かします。 ◎家庭科の学習を通じて、自分に対する理解や他者へのかかわり方を学び、自分自身の成長に繋がります。 ◎先生の話だけでなく、クラスメイトの意見や感想に耳を傾けながら、自分自身の生活課題の改善に繋げよりよい生活について考えます。 ◎興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりするために、授業内でデジタル教材等を活用します。 ◎授業での新しい発見や気づきを大切にして、自分の生活と結びつけたり、実際に工夫したりして、主体的に学習に取り組む態度も伸ばしていきます

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
評価規準：○ 評価方法：★ ①知識・技能 ○家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。 ★ テスト（定期テスト、技能テストなど） ★ レポート ②思考・判断・表現 ○生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★レポート ★振り返りシート ③主体的に学習に取り組む態度 ○家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり、改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★レポート ★振り返りシート

令和7年度 家庭科 第2学年の目標

よりよい生活のために工夫・創造できる生徒を育成する授業の実践

学期	学習の内容と授業の進め方・評価の観点と評価
1 学期	B【食事の役割と食習慣】 ○食事の役割 ○健康によい食習慣 ・健康によい食習慣や食事の役割について学び、自分の食生活を振り返る。 B【中学生に必要な栄養を満たす食事】 ○中学生の発達と必要な栄養 ○栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ・中学生の時期の身体的特徴や中学生に必要な栄養のとくちょうについて理解する。 B【献立づくりり ○1日分の献立 ・1日分の献立作成の方法を理解する。
2 学期	B【さまざまな食品とその選択】 ○生鮮食品の選択と保存 ○加工食品の選択 ・生鮮食品や加工食品の特徴を理解し、目的に応じた選択・保存ができる。 ○食品の安全と情報 ・情報を正確に読みとって判断し、選択できるようにする。 B【日常食の調理】 ○調理の計画 ○おいしさと調理 ○ますます好きになる肉の調理 ○こんなにおいしい魚の調理 ○好きになる野菜の調理 ・調理実習に必要な器具を正しく扱うことができる。 ・食品の調理上の性質を理解し、その特性を生かした調理ができる。 ・安全と衛生に留意した調理実習ができる。
3 学期	B【地域の食文化】 ○地域の食文化 ・和食の特徴を知る。 ・地域で生産される食材の調理を通して、地域の食文化を理解する。 B【持続可能な食生活】 ○持続可能な食生活をめざして ・持続可能な食生活を送るために、食生活を工夫することができる。

技術分野の目標
技術分野では、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術のかかわりや技術のしくみ・原理等について理解を深め、自ら進んで生活を工夫し創造する能力と生活の中から問題（課題）を発見し、解決しようとする実践的な態度を育てることをねらいにしています。
学習の特色
技術分野の学習は、知識や技術のしくみ・原理を理解するだけではなく、習得した知識や技能を日常生活で発揮できるように取り組んでいきます。 また、さまざまな生活の課題に取り組むという実践力を身につけられるようにしていきます。そのために、常に問題意識を持ちながら、自分自身の生活を見つめ直し、習得した知識や技術を生活の中で発揮できるように、「生活の中での実践」を心がけるようにしてもらいます。また、より充実した学習・生活ができるように実生活の中で習得した知識・技能を上手に使っていくことを奨励します。 なお、実習を単に「ものづくり」で終わらせることなく、ものづくりがなんの役に立つのか、なんのためにするのか、なにを解決するのか、といった視点を重視し、ものづくりを通して、社会や生活と技術のかかわりを考えてもらうことを大切にしていきます。 また、興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりするために、授業内でデジタル教材等を活用します。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○各分野で身につけるべきとされている知識や技能について、十分に習得できているかを評価します。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・定期テスト ・レポート ・作品（実習課題）、等 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って自らの考えや思いを表現できているか、課題を解決できているか等を評価します。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・定期テスト ・レポート ・作品（実習課題）、等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○授業（学習や実習）に取り組む態度、授業への参加状況・姿勢、課題等の提出状況等を評価します。 ★評価方法 ・授業の様子（姿勢・取り組み状況） ・提出物の提出状況・内容 ・作品（実習課題）、等 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 技術・家庭科 技術分野 第2学年の目標

生活や社会の課題を見つけ、技術の力で解決をめざそう！

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	生物育成の技術「無農薬でおいしい野菜を栽培しよう！」 ・作物の生育について理解することができる。 ・生物育成に関する技術と社会や環境とのかかわりについて考えることができる。 ・作物の栽培技術について理解する。 ・栽培方法を知る。 ・栽培に適した条件を知る。 ・土壌の特質を知る。 ・肥料の特徴を知る。 ・栽培実習に取り組む（種まき、育苗、かん水、間引き、追肥、管理、収穫まで経験する）。 ・病害虫の知識を学び、対策ができるようになる。 ・社会や環境とのかかわりについて知る。 ・生物育成の技術とわたしたちの未来について考える。
2 学 期	エネルギー変換の技術「エネルギー変換を利活用し私たちの生活を豊かにしよう！」 ・人間はどのようにエネルギーを利用してきたかを考え、エネルギーの利用には様々な技術が必要なことについて理解することができる。 ・エネルギーについて知る。 ・エネルギー資源について知る。 ・二次エネルギーの利用について知る。 ・エネルギーの変換と効率について知る。 ・電気エネルギーについて知る。 ・熱・光・動力への変換と利用について知る。
3 学 期	・電気機器の構成と、回路図の表し方について知る。 ・電気回路について考える。 ・使用目的と使用条件を考慮して、製作品をつくることができる。「防災グッズをつくろう！」 ・電子部品をはんだづけできる。 ・製作品を完成させる。 ・社会・環境とのかかわりについて考える。

令和7年度 内谷中学校 グローバル・スタディ科 シラバス

グローバル・スタディ科の目標	評価の観点等
将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる生徒を育成します。 ・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指します。 ・日本やさいたま市の伝統・文化に誇りをもち、将来にわたり、社会に貢献する生徒の育成を目指します。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○外国語の知識(単語や文法など)を理解しているかを評価するとともに、外国語の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかを評価します。 ★ペーパーテスト、文章表現活動、パフォーマンステスト等を行って評価します。 ②思考・判断・表現 ○知識及び技能を活用して、コミュニケーションや発表活動を行うのに必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。 ★ペーパーテスト、文章やレポート等の作成や発表、グループでの話し合い活動、パフォーマンステスト等を行って評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、自分がさらに向上していこうとする意志的な側面を評価します。 ★ノートやレポート等における記述、授業中の発言や参加状況、教師による行動観察等を使用して評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
グローバル・スタディ科の授業では、英語の習得と、習得した初歩的な英語を用いて、「聞くこと」、「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」、「書くこと」の4技能をバランスよく身に付けていきます。 加えて、3年間を通して、コミュニケーション能力を育成します。 授業は週4時間と週5時間を交互に繰り返しながら行います。また、定期的にALTが授業に参加し、英語による言語活動を充実させます。授業は英語で行うことを基本とし、生徒の状況を見ながら進めていきます。また、ICTを活用することで、イメージで理解し、表現の幅を広げる授業の工夫も取り入れます。 *ALT・・・外国人の先生 さらに、グローバル・スタディ科では、各教科等の学習内容とも関連させながら、我が国やさいたま市の伝統や文化への理解を深め、日本人としてのアイデンティティを醸成します。 自分の将来の夢や進路とも関連付け、よりグローバルな視野を持つ生徒を育成します。	

令和7年度 グローバル・スタディ科 第2学年の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	PROGRAM1 New Start ☐ 予定やこれからしようと思っていることなどを表現する。 ☐ 新学年の出来事や友だちについて話す。 ☐ 予定などについて、論理的に自分の意見を表現する。 PROGRAM2 Koshien Project in Africa  ☐ 状況や条件などの詳細を表現する。 ☐ 甲子園プロジェクトについて話す。 ☐ 自分の考えについて、意欲的にやりとりする。 PROGRAM3 Taste of Culture ☐ したいことや行動の目的などを表現する。 ☐ 世界の料理について話す。 ☐ 世界の食べ物の特色や魅力について意欲的にやりとりする。 ◆Our Project4 海外でヒットするラーメンのCMを作ろう ☐ 「ラーメンの魅力を伝える」プレゼンテーションをする。 ☐ 既習の言語材料の意味や働きを理解して、聞き手にわかりやすく伝える。 ☐ 考えや情報を整理して、積極的にやりとりをする。 Reading1 The Three Dolls ☐ 友人と物語の内容を共有するために、物語の重要な部分を理解し、自分の考えを含めて、論理的なレポートを書くことができる。 
2 学 期	PROGRAM4 Leave Only Footprints ☐ 「すべきこと」、「してはいけないこと」などを表現する。 ☐ 環境問題などの地域の諸課題について話す。 ☐ 諸課題を解決するためのディスカッションに意欲的に取り組む。 PROGRAM5 Work Experience  ☐ 何かの仕方や人やものの様子などを表現する。 ☐ 職場体験や働くことの大切さについて話す。 ☐ 友達からの質問や感想を生かして、自分の経験について書く。 PROGRAM6 High-Tech Nature    ☐ 大きさや程度を比べることについて表現する。 ☐ 生物をヒントにして作られたものについて話す。 ☐ 諸問題に対する複数の解決策を比較しながら、意欲的にやりとりする。 ◆Our Project5 日本のおすすめスポットを紹介しよう ☐ おすすめスポットについて、読み手にわかりやすいポスターを作成する。 ☐ 友だちと協力して調べ、積極的にアイデアを出す。 Reading2 Friendship beyond Time and Borders ☐ 記事を読み内容をわかりやすくまとめ、自分の考えなどを含めてレポートを書くことができる。
3 学 期	PROGRAM7 Unique Animals ☐ よりよいと思うものについて表現する。 ☐ ユニークな特徴や習慣をもつ動物について話す。 ☐ 複数のおすすめの場所やものを比較しながら、意欲的にやりとりする。 PROGRAM8 A Hope for Lasting Peace  ☐ 「されていること」「されたこと」などを表現する。 ☐ 戦争の歴史や平和について話す。 ☐ 日本の歴史や文化などの魅力を、情報などを整理して意欲的に表現する。 ◆Our Project6 My Hero の魅力を伝えよう ☐ 自分が尊敬する人物についてスピーチ原稿を書き、意欲的に発表をする。 ☐ 友だちのスピーチを聞き、感想や共感できる点を伝える。 Reading3 Apollo13 ☐ 英文を読み、内容の要点を整理しまとめ、簡単な紹介文を書くことができる。